



九州観光第三弾

佐賀県編

佐賀県関西・中京営業本部は、大阪駅前第1ビル9階にあります。佐賀県の県産品の展示、宣伝紹介、観光情報の発信、JRS、企業誘致などを行っています。佐賀出身の職員の方々から活きた情報が聞くことができます。

佐賀県の歴史

佐賀県は長崎県と共に、古くは肥前の国と呼ばれていました。この地は日本列島の中でも朝鮮半島、中国大陸に近く、水田稲作の技術を持った人びとが日本に最初に渡ってきた地とされています。その足跡は、佐賀県唐津市の菜畑遺跡や神埼市の吉野ヶ里遺跡にみることが出来ます。また、古代の防人の配置や中世・鎌倉時代の元寇、室町時代の和寇、戦国時代には豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄・慶長の役）など、日本から朝鮮半島や大陸への出兵や、防衛の基地となってきました。

佐賀の観光

佐賀県の観光エリアは玄界・海の幸、温泉・焼物 古代・吉野ヶ里、有明海・城下町の4つの大きなエリアに分けられます。玄界・海の幸エリアは、海の美しさと新鮮な海の幸が楽しめます。唐津市は呼子の朝市で知られ、元旦を除いて毎日朝の7時半から11時まで干物や海山の幸が並びます。特にイカの活き造りは呼子を代表するメニューのひとつで、イカの透明感としっかりとした歯ごたえが絶品です。鎮西町は、豊臣秀吉が朝鮮出兵の拠点とした名護屋城跡があり国の特別史跡に指定されています。一角にある県立名護屋城博物館は古代から近代までの日韓交流史を展示しています。

温泉・焼物エリアは、1200年の歴史の武雄温泉、美肌の湯で知られる嬉野温泉があります。嬉野温泉では温泉の湯を使った佐賀産大豆の湯豆腐が名物で各旅館、食事処が味を競います。日本磁器の発祥地・有田町は、世界的に高い評価を受けてきた焼き物の街。秀吉の朝鮮出兵の後、鍋島侯に從って日本に渡ってきた朝鮮の陶工李参平が有田泉山の土で白磁を焼き、有田焼が生まれま



した。佐賀県立九州陶磁文化館をはじめ、窯元での陶芸体験などが人気です。

古代・吉野ヶ里エリアでは、弥生時代の日本最大級の環濠集落跡である吉野ヶ里遺跡が発掘され、弥生時代600年間の移り変わりを体感しながら学ぶことができます。現在は、国営の特別史跡に指定され、物見櫓、城柵、竪穴住居、高床倉庫、祭殿などが復元された吉野ヶ里公園として古代ファンを魅了しています。

有明海・城下町エリアは干満の差が6センチ、干潟を思う存分楽しめるミニガタリンピックが修学旅行生や社員旅行に人気です。ガタリンピックは鹿島市の町おこしの一環として1986年に第一回が開催されました。漕スキーで干潟を滑る競技や板を並べた上を自転車で走る競技などが行われ、昨年は観客も含めて2万3千人（参加者1200人）もの人が集まりました。

有明海の今

有明海において、干潟に堤防を築いて干拓地を造成する、いわゆる「地先干拓」の歴史は14世紀に遡り、16世紀頃から本格化したといわれています。近年の干拓による漁業への影響は大きく、県西部の太良町の漁師には、収入が減り、タマネギの出荷を手伝いながら生計を立てている方もありと地元新聞にありました。以前の有明海は、宝の海といわれ、「ムツゴロウ」、「アゲマキ」、など多数獲れていましたが、近年の有明海では、赤潮や貧酸素水塊が多発し、二枚貝などの減少、海苔の色落ちが発生するなど、有明海の再生を強く望む状況が続いています。このような中、昨年「諫早湾干拓事業潮受け堤防」の開門調査をするとの政治判断がなされ、開門調査の具体化に向け動き出し、有明海再生へ一歩踏み出しました。

有明海への関心が高まる中、有明海の干潮時に現れるムツゴロウの伝統漁法「むっかけ」を30年ぶりに後継したのが鹿島市出身の青年、池田敬一さんです。むっかけとは、干潟で活動するムツゴロウを漕スキーで追い、竹竿に付けた掛け針で引っかける漁法で、有明海独特のもの。池田さんは本業の漁業だけでなく、有明海の生きものやそこに住んでいる人々と生きものとの関わりを観光客に伝える環境教室、干潟体験などを行っています。どろんこになって有明海を這うことで、有明海の現状を知ることができる機会として注目を集めています。



ガタリンピック



弥生時代の日本最大級の環濠集落跡 吉野ヶ里遺跡

県職員の方は、「佐賀県には有田焼や吉野ヶ里遺跡など世界的に注目を集める文物が多くあります。事務所に足を運んでいただければ、日常での佐賀との関わりが分かり、旅心が誘われることでしょう。是非、おたずね下さい」と仰っていました。

佐賀県関西・中京営業本部

大阪駅前第1ビル9階

06・6344・8031

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞